

開催地名：神奈川県海老名市	
開催日時	令和2年1月18日（土） 10：00～12：00
開催場所	海老名市役所
語り部	武蔵野 美和（岩手県陸前高田市）
参加者	自治会長、防災指導員、民生委員児童委員、消防団等 約200名
開催経緯	<p>当市は、被災地になった経験がないため、災害発生時にどのように対応すべきか検討しなければならない。また、若年層の防災意識の低下が課題となっている。東日本大震災の語り部のお話を伺うことで、今後の防災活動の一助としたい。</p>
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私が住む陸前高田市は岩手県南部の太平洋側に位置している。岩手県の中では比較的温暖な地域で、東北の湘南とも呼ばれている。この陸前高田市は、皆様ご存知のように東日本大震災で津波の被害を受け、街が壊滅してしまった。本日は生活者の視点からの避難所運営についてお話しさせていただきたいと思う。</p> <p>（2）東日本大震災の被害状況</p> <p>皆様ご存知のように、三陸沿岸は昔から津波の被害を受けてきた。さかのぼれば明治三陸大津波や昭和三陸大津波、チリ地震の津波の被害が有名である。これらの津波被害を受けて対策が講じられてきたにも関わらず、また、情報網が整備されていたにも関わらず、東日本大震災では多くの犠牲者を出してしまった。市内の公共施設についても、市庁舎や図書館、体育館、公民館、小中学校や保育所等々の多くの施設が全壊してしまった。人口24,246名のうち、死者・行方不明者は1,757名にのぼる。3月11日、私は当時中学校のPTA会長を務めており、体育館の落成式のため体育館にいた。地震の揺れは立ってられないほどのもので、長時間にわたって続いた。幸い中学校にいた生徒たちは全員無事であったが、「自分は大丈夫だ」という正常性バイアスが働くと、過去の大津波を体験している人でも逃げない人が多くいた。地震が発生してから津波が押し寄せるまでの40分間、逃げた人と逃げなかった人では大きな差が出てしまったという現実がある。</p> <p>（3）避難とは</p> <p>陸前高田市では、避難場所の半数以上が被害にあった。一部の地区では、訓練時に使用していた地区防災センターという場所に多くの方々が避難したが、実は防災センターは指定避難所ではなかった。そのため、避難所だと思い込んで避難してきた方々の多くが犠牲になってしまった。皆が逃げることができなければ避難とは言えない。要支援者を含む避難訓練を日頃からしているだろうか。陸</p>

前高田市ではそのような訓練が行われていなかったために、多くの犠牲を出してしまった。日頃から「万が一」を考え、自分の命を守るための「備え」を意識していただきたいと思う。

また、避難と避難所へ行くことは同じではない。身の安全が確保できるのであれば、とどまることも重要であるし、ストレスが大きい場所にあえて行く必要はない。家が安全であれば家とどまっていて問題ないのである。究極の防災は、逃げなくても良いところに住むことである。

(4) 避難所について

避難所での避難生活では、一般的な備えしかない。アレルギーに対応した食品や、赤ちゃんのミルク、個々の病状に応じた薬等、それぞれにとっては必須のものでも、全体では特殊なものに該当するものは、用意されていないのが現実である。対応できなければ困ることは自分で備える必要がある。一時避難時の食事についても、個々に確保するのが基本である。災害時に必要な各種備品（懐中電灯、充電式ラジオ、ラテックス手袋等）の備蓄の他に、食料品や日用品については、少し多めに購入して日常生活で消費し、減った分を補充していく「ローリングストック」方式をお勧めしたい。

また、避難所は開設される地域で連携し、地域のニーズに則した対応を行う必要がある。それぞれが担うべき役割を明確にし、多様な人たちの存在を認識すること、配慮を必要とする人たちの情報を把握すること、ストレスがかかることで生じるリスクを理解すること、そして生きるための知恵を知っていること、これら生活者の視点で考え、話し合い、避難所でのルールを作ることが重要である。



開催地より

東日本大震災の体験談、教訓について、わかりやすくお話しいただいた。「避難」ということについての認識を深めることができたと思う。